

みどりのはっぱ



Vo.22

【発行者・所在地】(社)
グリーンポスト事務局
大阪市中央区
宗右衛門町
5-25-302

新年

明けまして
おめでとーございませう

皆さまの健康を
お祈り申し上げます。



明けましておめでとーございませう。

平素から学校建設やアジア子ども奨学金など、発展途上地域への教育支援活動に對しまして、深いご理解とご尽力を賜り、誠にありがとうございます。

当会の活動成果の一つであるスメット小学校校舎が完成し、コロナ禍を経て現地への表敬訪問が実現しました。

日程調整などで、ご参加がかなわなかった皆様にも、少しでもお伝えできればと思います。

そして、コロナ禍や円安の影響により、資材費や人件費の高騰などの対応で、共同で学校建設事業の推進に取り組んでくださった公益社団法人ボランティア国際ボランティア協会様を始めとする団体関係者の皆様方におかれましても、多大なご支援ご協力に感謝申し上げます。

昨年、学校建設という一つの目標が達成できました。今後の活動等については、第29回理事会及び臨時社員総会で決定しております。

結びになりますが、皆さまの益々のご健康とご多幸を心よりお祈り申し上げます。

(社)グリーンポスト事務局

○グリーンポスト理事会及び臨時社員総会

一般社団法人グリーンポストの理事会及び臨時の社員総会を十二月十四日(土)15時30分から開催しました。会議の概略は左記の通りです。

一、活動報告 カンボジア王国ポーンサット州スメット小学校視察報告でした。

期間10月31～11月5日の6日間

※別紙：写真及びボランティア国際ボランティア協会カンボジア事務所提供資料等一部参照

視察メンバー(高橋・酒井・吉田・上田)4名でした。10年前のバタンバン州のノリア小学校校式典訪問では13名の方々が参加しました。

今回の支援はスメット小学校の生徒さん93名方々にボランティアボランティア会からのアドバイスでクメール語の絵本(46タイトル)を寄贈いたしました。(グリーンポストから)なお、今回の視察に對して多くの方から寄贈をいただきましたこと報告しました。内容は焼庵宮本様、橋本則枝様(橋本聖様遺族)建研労働組合、吉田清一様他2名の方からいただきました。(50,654円)ありがとうございます。

二、議案はグリーンポストの組織改正で一般社団法人グリーンポストを解散しなければならぬ事情を述べて法人格を持たない任意の団体として活動を継続していくことに出席者は満場一致で可決しました。また清算人の選任は議長の酒井信夫を満場一致で承認されました。今後は事務所の整理を行うこととします。また、会費の徴収は十一月末をもって終了し教育支援などの寄附には受付いたします。以上の内容は理事会、理事八名中出席六名、委任状二名欠席〇名、監事一名中一名出席で会議は成立、議案は満場一致で社員総会に提案報告することを承認、また総会は社員十三名出席六名委任状六名一名欠席で総会は成立、議案については満場一致で承認されました事を報告いたします、なお、今後の活動は機関紙「みどりのはっぱ」でお知らせいたします。

◎十一月二日(土)カンボジア王ポーンサット州スメット小学校 表敬訪問日記

そこにはオレンジ色に輝くテントがあり、待ち兼ねたように待む人々の姿が。

笑顔や戸惑いの見える表情に見守られ、私たちが一行は老若男女たくさんの人々に迎えられました。

十月三十一日(水)午前8時、関西国際空港に集合。少し肌寒い時間帯でしたが、ホーチミン国際空港を経由して、プノンペンへ向かう旅が始まった。時差は2時間、搭乗時間は5時間ほどある。

(日本時間午前10時出発、現地時間午後5時到着)プノンペンからデムリアップまで乗用車で3時間半、そこからシエムリアップまで5時間ほどかかった。鉄道が不便であったため、体力的にきつかった。

翌十一月一日(木)に公益社団法人ボランティア国際ボランティア協会プノンペン事務所にお伺いし、現地状況と活動内容等をお聞きしました。所長の菊池さんと集合写真を撮影した。

翌十一月二日(土)午前7時、いよいよスメット小学校へと向かう。

その道乗りは遠いため、午前7時に出発。乗用車2台で約2時間の道のり、西へ向かう。信号機があまりに少ない国道?2車線道路を走る。道端に露天のような店が数多く点在するのを見ながら、揺られること90分。

ここで車が減速し、ここから右折していく。山道のような細い道を約10km駆け抜けていった。土の色は赤く、砂丘の砂のような感じでした。上下動の激しい道をそろりそろりと走り、私たちの手もアシストグリップに力がこもる。

左右にキャサバ(フランスパンの原料になると説明)や、カシューナッツ、ドリアン(のちのち)の匂いもある。そして、蛙の養殖もありますと説明してくれたのは、ガイドのマッカラさん。

運転手ペンさんの手元にも力が入る。やがて家屋(日本の過疎地を想像してみてください)が点在するようになり、大きな建物が見えてきた。ようやく車が停車し、そこにはアーケードのように見える門を背にした子供たちが列をなして待っていてくれました。

コミュニティの人たちも笑顔で迎えてくれた。

子どもたちがクロマーと呼ばれるマフラーを首に巻いてくれて、私たち一行を歓迎式典の催されるオレンジ色のテントまでエスコートしてくれた。

「お手伝いしなさい」と言われたのだろうかなど思い、心とむひとききでもあった。

用意されていた式典のテントは、私には幸せの黄色だった。

その中で、子どもたちはおとなしく着座をしているが、好奇心に溢れ、目を輝かせているようだ。

何せ、日本人と出会うのが初めての経験ということだから。

式典は参加者が大勢見守る中、代表である高橋会長があいさつを行い、スマット小学校訪問に伺った理由と現地ของ皆さまへの感謝などを述べた。

その後、コミュニティの皆さんとの談話を始めました。(後段の☆スマット小学校の現状)

校長は若く25歳、教員は3名で93名の子供たちを教えている。

この学校ができたお陰で転入者が増え、村が大きなコミュニティに成長しているそうで、1年生から6年生まで学べる6クラスとなった。

しかし、農村部であるが故に、農繁期に欠席が目立つのが課題だ。

就学児童数が増加しているので安心して通えるよう、学習環境が良くなっていることに感謝されている。

大きく目立つ校舎は白い作りでとてもきれいだ。

児童みんなで大切に使われているようだ。



廊下を歩くと、建物中央付近の壁に、金色の寄贈者プレートがあった。記載希望者の個人・団体名が連なっていたが、その中に故橋本聖さんのお名前もあった。たくさんの方々に応援してくださった証でもある。教室で絵本やノートなどを手渡し、見学させていた。

児童との交流では、子どもたちが描いた絵(日常を描いている)を私たち一人一人に手渡ししてくれた。私たちは皆、はにかんでしまったようだ。



現地を離れる際、子どもたちが大勢でコミュニティの入り口まで手をつないでお見送りしてくれた。

歓迎されていることをより強く感じた瞬間でもあった。

この気持ちはいつまでも忘れないと思う。

☆スマット小学校の現状と課題(意見交換)

○何故児童数が増えたのか・・・新しい校舎が魅力的なため親が興味を持ち、村の子供たちのほとんどが登校するようになった。(安心して送り出せる)

○児童数が増えるにつれ、机や椅子が必要では・・・一クラス40名(24名)の対応はできている。(授業は午前・午後の2部制)

しかし、高学年で座高が高くなる児童には、村人の寄付で賄なっている。

○教員の職員室はあるのか・・・教室の隣に設置されている(宿舎兼用)

※教員が足りないことと中学校が無いので、卒業しても遠く、また雨期で道が塞がれ通えないことが多い。(もう一度6年生で学ぶ児童もいる)

★スマット小学校

- ・鉄筋コンクリート製校舎(3教室)
- ・学校備品(黒板3台、教壇3台、教員用の机と椅子3セット)
- ・トイレ(4室)
- ※竣工日2022年8月31日
- ・事業対象地域
- ・ポーサット州 ヴィール・ヴェン郡
- ・クラブ・ピー集合村 スマット村
- ・直接受益者
- ・学齢児童82人(女子40人) 教員3人(女性0)
- ・間接受益者
- 168世帯、地域住民655人(女性331人)

◆奨学金支援のご協力

タイの国境周辺では、隣国ミャンマーが軍事クーデター以降内戦状態になっています。

このことから、正規の移民労働者が約240万人に加え、数百万人とも言われる非正規労働者や難民、避難民などの入国者が国内で暮らしています。

近年はこうした移住者の貧困問題や、国籍のない子どもたちへの教育が極めて重要なテーマになっています。

支援団体 シーカー・アジア財団【タイ王国】
募集金額 年間一口3万円

【編集後記】

日本からカンボジアまでのフライトは直行便が無い。観光・ビジネスを問わず、利用者が少ないということ。近隣の事情はなかなか分からないもので、その中であって多少理解できたりする。

今回、郵便局を見に入ってみたら、言葉が通じないにも関わらず、丁寧に対応をしてくれた。

最後は上司と思われる職員がスマホアプリの翻訳ツールを駆使して、私を理解し見学させてくれた。親切なお国柄であった。

仁

